

令和2年度 自己評価表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>人づくり (キャリア教育の推進)</p> <p>－ 自己肯定感を育み、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成 －</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>①学力の向上：学びへの意欲向上、基礎学力の充実 ②進路の実現：進路意識の向上、進路指導の充実 ③社会人基礎力の育成：生活習慣の確立、マナー・作法の向上、自己肯定感の育成 ④地域連携の推進：「青谷学」と「課題探究」の充実、地域の行事への参画・参加、保育園・小学校・中学校等との連携、広報活動の推進 ⑤業務改善の推進：時間外業務時間の縮減、学校行事等の見直し、部活動の計画的実施</p>
---------------------------	--	----------------------	--

評価基準 A：十分達成(100%) B：概ね達成(80%程度) C：変化の兆し(60%程度) D：まだ不十分(40%程度) E：目標・方策の見直し(30%以下)

年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 学力の向上	<p>(学びへの意欲向上)</p> <p>・授業改革(タブレット端末等ICTを活用した授業実践)の推進</p> <p>・授業規律の向上</p>	<p>・総合学科の特性を活かした多様な選択科目、少人数制およびティーム・ティーチング等により、わかりやすく、魅力のある授業実践に取り組んでいる。</p> <p>・多くの教員がICT等を活用し、昨年度の公開授業では、各教科少なくとも1名がICTを活用した授業を行った。iPad等の活用により、学習意欲が向上した生徒は約79%と肯定的意見が多い。</p> <p>・授業規律は概ね良いが、授業に対する意欲が不足している生徒がいる。</p> <p>・授業に遅刻し、入室許可書の累積枚数が6枚以上の者は1人のみ。</p>	<p>・各教科科目の特性を活かし、わかりやすく、魅力のある授業実践に取り組んでいる。その一環として、多くの教員がICT等を効果的に活用している。</p> <p>【指標①】ICT等を活用して授業を行う教員が80%以上</p> <p>【指標②】ICT等を活用した授業の実施によって学習意欲が向上する生徒が80%以上</p> <p>・生徒が授業に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>【指標③】学校評価アンケート問2で「思う」とする割合が5%増加</p> <p>【指標④】入室許可書の累積枚数6枚以上の生徒はいない</p>	<p>・ICT等を活用した効果的な授業を行うための職員研修を実施する。</p> <p>・ICT等を活用した公開授業を各教科で実施し、教科を問わず積極的に参観し合い、研修を深める。</p> <p>・公開授業週間を活かして、更に魅力ある授業づくりにつなげる。</p> <p>・生徒との面談とおして学ぶ意欲を向上させる。</p> <p>・授業開始時に「本時の目標」を明示し、授業終了時には、その達成度を実感できるようにする。</p> <p>・入室許可書の厳格な運用と細やかな指導を徹底する。</p>	<p>・全ての教科でICTを活用した公開授業を計画しており、9月末段階で2名実施している。</p> <p>・6月にgoogle classroomの活用をはじめとするiPad自主研修会を開催し、16名の教職員が参加した。</p> <p>・教職員が、教科の枠を超えてiPadの活用方法について協力している。</p> <p>・1学期の公開授業週間は、昨年度に続き多くの教職員が相互に授業参観した。</p> <p>・生徒面談を定期的に行い、さらに、個別のニーズに応じた面談をこまめに行っている。</p> <p>・「本時の目標」の明示を心がけているが、十分とは言えない。</p> <p>・9月末現在、入室許可書の累計枚数が6枚以上の生徒は2名。</p>	C	<p>・現在企画中のICT等活用のための教員研修を実施し、分かりやすく魅力ある授業作りに継続して取り組む。</p> <p>・学ぶ意欲の向上に繋がる面談を心がける。</p> <p>・全授業で「本時の目標」を明示するよう継続して取り組む。</p> <p>・「入室許可書」の枚数が少ない段階で、早めの指導を継続する。また、全体の授業規律等の徹底を図る。</p>
	<p>(基礎学力の充実)</p> <p>・学び直しの実施</p> <p>・自宅学習の定着</p>	<p>・基礎力診断テストのDゾーンの生徒の割合が減少傾向の教科もあるが、まだ十分とは言えない。</p> <p>・各教科で課題等を出し、自宅学習の習慣が定着するよう取り組んでいるが、一日平均1時間未満の生徒の割合が高く、まだ十分な成果は出ていない。</p>	<p>・基礎学力の定着が見られる。</p> <p>【指標⑤】基礎力診断テストの各教科のDゾーンの生徒の割合が年度当初より5%減少</p> <p>・自宅学習時間が増え、授業の予習、復習をする習慣が定着している。</p> <p>【指標⑥】学校評価アンケート問12で「思う」とする割合が昨年度より5%増加</p>	<p>・国語での学び直し教材や学校設定科目(基礎数学・基礎英語)を効果的に活用して、学び直しに取り組む。また、上級学校進学等への対応も授業の中へ組み入れる。</p> <p>・各教科で自宅学習の課題を工夫することで取り組みやすい状況を設定し、提出及び点検を徹底する。</p> <p>・自宅学習調査の実施により、生徒が自宅学習を習慣化する機会とするとともに、その結果を教員が共有し、生徒への指導・助言に活用する。</p>	<p>・計画的に学び直しに取り組んでいる。</p> <p>・上級学校進学等に対応する授業内容を適宜組み込んでいる。</p> <p>・各教科で、計画的に課題等を課し、こまめな提出・点検を行い、生徒の学習習慣と学力の定着をサポートしている。</p> <p>・9月実施の第2回基礎力診断テストでは、1年次、2年次ともにDゾーンの生徒の割合が、4月実施の第1回基礎力診断テストと比較して減少した(1年次：国語△22.4ポイント、数学△5.1ポイント、英語△12.8ポイント、2年次：国語△16.5ポイント、数学△18.2ポイント、英語△8.3ポイント)。</p> <p>・自宅学習時間調査では、1学期期末考査(6月)に加えて1学期中間考査(5月)にも実施し、早期の実態把握を行った。ここ数年の6月の過年度比較では、1日平均1時間未満の生徒の割合が最も低く、また、平均学習時間が最も長い、という好結果であった。</p> <p>・2学期に入り、学業に対する意識の低下が見られる生徒が一部出ており、年次や教科等で情報交換を密にし、連携して改善に取り組んでいる。</p>	B	<p>・継続して、教科指導の充実を図る。</p> <p>・継続して、上位層に対しては、個別に添削指導などを取り入れる。</p> <p>・年次と教科が今後も継続して情報共有するなど連携し、基本的な生活習慣や学習習慣の定着と学力の伸長に取り組む。</p>

令和2年度 自己評価表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>人づくり (キャリア教育の推進)</p> <p>－ 自己肯定感を育み、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成 －</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>①学力の向上：学びへの意欲向上、基礎学力の充実 ②進路の実現：進路意識の向上、進路指導の充実 ③社会人基礎力の育成：生活習慣の確立、マナー・作法の向上、自己肯定感の育成 ④地域連携の推進：「青谷学」と「課題探究」の充実、地域の行事への参画・参加、保育園・小学校・中学校等との連携、広報活動の推進 ⑤業務改善の推進：時間外業務時間の縮減、学校行事等の見直し、部活動の計画的実施</p>
---------------------------	--	----------------------	--

評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（60%程度） D：まだ不十分（40%程度） E：目標・方策の見直し（30%以下）

年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
2. 進路の実現	(進路意識の向上) ・進路に関する取組の充実 ・進路体験（オープンキャンパス・インターンシップ）の充実 ・面談、事前事後指導の充実	・多様な進路希望を持っている。 ・進路に関する講演等に対する生徒の評価がまだ低く、役立っていると思う生徒は約24%に留まっている。 ・自信が持てず、主体的な行動につなげていない生徒もいる。 ・地元の企業や学校の特色など、生徒に十分周知できていない。	・進路に関する行事や講演をとおして、生徒の進路意識が向上している。 【指標⑦】学校評価アンケート問17で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上 ・進路に関する情報が十分に生徒・保護者に提供されている。 ・充実した進路体験を通して、生徒の進路意識が向上している。	・進路部会を定期的に開催し、進路行事の精選と目的の明確化を図る。 ・多様な生徒の要望に対応するために、外部機関を含めた連携を進める。 ・企業や上級学校の情報をいま以上に提供する。（進路だよりの発刊） ・進路指導部が、面談時や面談後の指導に積極的に関わる。	・進路部会は開催できていないが、こまめに行事の意義や方法を検討して実施した。 ・年次と教育相談部は、ハローワークや地域若者サポートステーションと連携をして、多様な生徒の進路意識を高めることができた。 ・情報発信としての進路便りは2号にとどまっている。 ・PTA三者懇談も含めて年次と進路指導部が、面談時や面談後の指導に積極的に関わっている。	B	・進路部会を定期的に開催する。 ・節目を狙って進路便りを発行する。 ・情報共有を継続する。
	(進路指導の充実) ・早期の進路目標の明確化 ・進路実現に必要な学力の育成	・進路未定の生徒が1年次で約21%、2年次で約8%いる。 ・4年制大学志望者が全体で10%以下。 ・第3回基礎力診断テスト（令和2年1月実施）の状況 1年次：Bゾーン約10% D3ゾーン約30% 2年次：Bゾーン約8% D3ゾーン約44%	・各年次とも進路未定の生徒の割合を5%以下にする。（【指標⑧】） ・4年制大学を目指す生徒が増えている。 ・第3回基礎力診断テストで、Bゾーン以上の生徒の割合が10%以上である。（【指標⑨】）	・進路指導部、就職支援相談員による早期面談を実施する。 ・「4年制大学進学推進プロジェクトチーム」の有効的な活動を実施する。 ・基礎力診断テストの事前事後指導を、年次・教科と相談して行う。	・年次と連携を取りながら就職支援相談員による継続的な面談を実施した。 ・「4年制大学進学推進プロジェクトチーム」による会議を5月と6月に開催し、進学希望の生徒の状況や対応策を検討した。 ・【指標⑧】について 1年次 4月8人14.0%→9月14人25.0% 2年次 4月15人17.9%→9月3人3.8% と変化した。1年次では、様々な講演会や「だっぴ」等により、生徒自身が自分の将来について深く考えるようになり、未定者の割合が増加し、2年次では、サマーワークを通じて、自分の将来について目標を明確にできるようになったのではないかと分析している。 ・【指標⑨】について 1年次 4月2人3.5%→9月3人5.4% 2年次 4月2人2.4%→9月6人7.4%	C	・引き続き、生徒の心を揺さぶるキャリア教育を推進する。 ・1月基礎力診断テストに向けた事前学習を強化する。 ・事後指導の強化（ベネッセとの連携）をする。

令和2年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	人づくり (キャリア教育の推進) - 自己肯定感を育み、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成 -	今年度の重点目標	①学力の向上：学びへの意欲向上、基礎学力の充実 ②進路の実現：進路意識の向上、進路指導の充実 ③社会人基礎力の育成：生活習慣の確立、マナー・作法の向上、自己肯定感の育成 ④地域連携の推進：「青谷学」と「課題探究」の充実、地域の行事への参画・参加、保育園・小学校・中学校等との連携、広報活動の推進 ⑤業務改善の推進：時間外業務時間の縮減、学校行事等の見直し、部活動の計画的実施
--------------------------	---	-----------------	---

評価基準 A：十分達成(100%) B：概ね達成(80%程度) C：変化の兆し(60%程度) D：まだ不十分(40%程度) E：目標・方策の見直し(30%以下)

年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3. 社会人基礎力の育成	(生活習慣の確立) ・学校の日課表に沿った規則正しい生活の実現 ・整理・整頓・清掃(3S)の励行	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数は減少しているが、欠席者数が増加している。 教室内で自身の荷物の整理が十分でない生徒もいる。(机上や床) ごみの排出量が多く、分別もまだ不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校を中心に据えた行動意識が醸成され、学校生活のルールに基づいた生活習慣が定着している。 【指標⑩】欠席率・遅刻率が共に2.00%未満 身の周りの整理・整頓ができ、学習環境を整える習慣が定着している。 【指標⑪】学校評価アンケート問4で「思う」とする割合が昨年度より3ポイント向上 ごみ排出量の削減。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒への指導は時間をおかず適宜行う。 保護者への連絡を密にする。(必要に応じて家庭訪問等も行う。) 正副担任が、SHRで荷物の整理を促し指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人への速やかな指導、保護者への速やかな連絡は概ねできている。 整理、整頓への声掛けはこまめに行っており、個人部分では整理できつつあるが共有部分の3S(整理、整頓、清掃)についてはまだ不十分である。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 継続して本人、保護者への連絡を速やかに行っていく。 SHR時は勿論、各授業の開始の際にも指導を徹底していく。(朝清掃の徹底も含む)
	(マナー・作法の向上) ・身だしなみ・あいさつ・言葉遣いの向上	<ul style="list-style-type: none"> 制服の着こなしが大きく崩れた生徒はほとんどいない。 朝から元気に挨拶できる生徒はまだ少ない。 TPOに合わせた言葉遣いができない生徒が若干いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者を意識し、身だしなみや行動を整えることができる。 【指標⑫】学校評価アンケート問7で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上 相手のことを思い、自発的に挨拶ができるようになる。 【指標⑬】学校評価アンケート問5で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上 TPOに応じた正しい言葉遣いができている。 【指標⑭】学校評価アンケート問6で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上 	<ul style="list-style-type: none"> 時を逃さず、タイムリーな指導を心がける。 教職員の方からも元気に挨拶をしていく。 生徒会執行部による定期的な挨拶運動を継続して行なう。 出来ていない生徒に対しては、その場で理解できるように教職員が協力して指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当年次を越えて、生徒への声掛けや指導を行う教職員が増えている。 生徒会執行部による挨拶運動は、後期メンバーになり毎日実施する計画となった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 継続して、タイムリーな指導を担当年次を越えて全教職員で行っていく。 教職員の方から挨拶、一言声掛けをしていく。 生徒会執行部の挨拶運動について、継続できる方法を具体的に検討する。
	(自己肯定感の育成) ・人権教育・特別支援教育・性教育・食育などの取組の充実 ・褒める活動の実践 ・部活動の活性化 ・ボランティア活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 外部人材も活用し、生き方あり方に関する多くの講演会やLHR等を実施している。 特別支援教育等の職員研修を実施している。 褒める実践が不十分である。 部活動加入率が低く、部員数不足の部もあり、部活動の活性化に課題がある。 多くの生徒がボランティアに参加したが、生徒の主体的活動の広がりは不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> そのままの自分を認め、自分を尊重し、自己価値を感じて自らを肯定するとともに、他者の存在価値を認め、自他共に尊重し合える力が身につけている。 教職員の褒める実践力が向上している。 部活動加入生徒の満足度が高まる。 【指標⑮】学校評価アンケート問20で「思う」とする割合が昨年度より3ポイント向上 全校生徒の5割以上がボランティアに参加している。 (【指標⑯】) 	<ul style="list-style-type: none"> 生き方あり方に関する講演会等を精選し、より効果的なものにする。 外部人材を活用した講演会やLHRを充実させる。 職員研修等を充実させ、生徒の指導に生かす。 人権教育LHRの事後指導を充実させ、次回のLHRにつなげていけるように取り組む。 生徒のみの活動とならないように顧問が協力して活動を支える。 各部で目標を設定する。 ボランティア情報の広報・掲示方法等を工夫する。 ボランティア参加状況を、年次や分掌とも協力して幅広く集約する。 	<ul style="list-style-type: none"> リモートを活用した人権教育講演会兼ネット上におけるモラル啓発を10月に実施するよう計画した。 特別支援教育の職員研修では、具体的な事例について学び、個々の生徒について指導の共有化をはかることができた。 人権教育LHRの事後指導では、議事録をとり、次回指導につなげている。 部活動については、新型コロナウイルスのため様々な制限(大会中止、遠征自粛等)があり、積極的な活動とはなっていない。 ボランティアについても、制限があり幅広く参加することができなかった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 過去の方法に拘らず、生徒に有効な手段をその都度検討して、実施していくようにする。 様々な情報の共有を行うことで、継続した幅広い指導へと繋げていく。 部活動やボランティア活動等においては、新しい生活様式にあった活動を検討していく。

令和2年度 自己評価表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>人づくり (キャリア教育の推進)</p> <p>— 自己肯定感を育み、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成 —</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>①学力の向上：学びへの意欲向上、基礎学力の充実 ②進路の実現：進路意識の向上、進路指導の充実 ③社会人基礎力の育成：生活習慣の確立、マナー・作法の向上、自己肯定感の育成 ④地域連携の推進：「青谷学」と「課題探究」の充実、地域の行事への参画・参加、保育園・小学校・中学校等との連携、広報活動の推進 ⑤業務改善の推進：時間外業務時間の縮減、学校行事等の見直し、部活動の計画的実施</p>
---------------------------	--	----------------------	--

評価基準 A：十分達成 (100%) B：概ね達成 (80%程度) C：変化の兆し (60%程度) D：まだ不十分 (40%程度) E：目標・方策の見直し (30%以下)

年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
4. 地域連携の推進	(「青谷学」と「課題探究」の充実) ・地域への関心の高まり ・成果の発表	・「青谷学」と「課題探究」の学習・活動をとおして、生徒の地域への興味関心が高まった。 ・課題探究成果発表会を青谷町総合支所の施設を借り、地域の方を招いて実施した。 ・「青谷高校活性化を支援する会」の協力で講演会や現地学習が充実した。	・生徒の地域への関心が高まり、主体的に地域に参画・貢献する姿勢・態度が養われている。 ・「青谷学」や「課題探究」の取組をとおして、生徒のコミュニケーション力、プレゼンテーション力が向上している。 ・「青谷学」や「課題探究」の取組に対する地域の理解が深まり、地域から更なる協力が得られている。	・地域の資源の活用方法や地域課題の解決方法を考案し、地域に提案する。 ・3年次の課題探究で地域資源の活用方法を実践する。 ・課題探究成果発表会を地域の多くの方に公開して開催する。 ・「青谷学」の成果発表としてポスターセッションを実施し、作成したポスターを地域の施設等に掲示し、地域の方々に見ていただく。	・「課題探究」において、地域資源の活用方法や地域課題の解決方法を考案、提案し、地域から協力を得ている。 ・地域の方を外部講師として招聘することで、生徒は地域の新たな魅力を発見し、興味関心は高まっている。	C	・課題探究は12月に、青谷学は2月に成果発表をそれぞれ実践する。 ・生徒の興味関心は高まっているため、生徒が更に主体的に地域の方とコミュニケーションをとったり、地域課題の解決方法を考察したりできるよう指導をする。
	(地域の行事への参画・参加) ・生徒の地域行事への参加数増大 ・生徒の充実感・有用感の高まり ・地域からの生徒・学校への信頼・期待の高まり	・地域行事に参加した生徒が前年度より増加した。 ・ボランティアに参加した生徒の多くが、充実感・有用感を感じている。 ・生徒のボランティア活動等に対して、地域の方から肯定的な評価をいただいている。	・地域活動に50%以上の生徒が参画・参加している。(【指標⑩】) ・地域活動をとおして、参加した生徒の80%以上が有用感を実感し自己肯定感を高めている。(【指標⑯】) ・地域活動で関わった地域の方の80%以上から肯定的に評価されている。(【指標⑰】)	・「青谷学」で、地域行事でのボランティア活動参加を推進する。 ・「課題探究」の実践活動を全てのグループが実施する。 ・スローガン入りのポロシャツを作成し、地域活動への参加意識を高める。 ・地域活動参加時の心得として、社会人として身につけておくべきルール・マナーについて事前指導をする。	・今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、各ボランティアが中止となり参加できていないので、【指標⑯⑰⑱】の評価ができない。	—	・開催可能となったボランティアを生徒に周知するとともに、引き続きボランティア参加の意義等について指導をする。
	(保育園・小学校・中学校等との連携) ・地域のすくすく保育園、青谷小学校、青谷中学校との連携 ・「青谷高校活性化を支援する会」、青谷町総合支所との連携	・すくすく保育園と青谷小学校との連携は進んでいるが、青谷中学校との連携が十分にできていない。 ・青谷町総合支所を中核とした、「青谷高校活性化を支援する会」等の地域の諸組織との連携がとれ、本校に対してさまざまな支援をいただいている。	・すくすく保育園、小学校、中学校との連携の内容が充実している。 ・すくすく保育園のボランティア参加者が前年度より増加している。 ・「青谷高校活性化を支援する会」等で定期的な意見交換が行われ、地域の協力が得られている。	・青谷中学校との連携のあり方を検討する。 ・教科、進路部、年次等と連携して、保育士や幼稚園教諭を目指している生徒への参加を呼びかける。 ・「青谷高校活性化を支援する会」及び「青谷地域にぎわい創出事業」の会合等へ出席し、本校の取組を報告し、地域人材の情報や実践活動の協力を得る。 ・課題探究の実践活動で青谷の良さをPRする。	・「青谷学」と「課題探究」において、小学生や地域の方と一緒に田植えと稲刈りの体験を行った。 ・すくすく保育園で保育実習を行った。 ・「青谷高校活性化を支援する会」の地域部会は、新型コロナウイルス感染予防のため実施されていない。 ・「青谷地域にぎわい創出事業」の会合等へ出席し、協力を得ている。	C	・引き続き青谷中学校との連携(数学科)を検討する。 ・今後、新型コロナウイルス等の影響に対応する新しい型の地域参画を考える。
	(広報活動の推進) ・ホームページの充実と更新 ・地域や中学生などへの情報発信	・ホームページのデザインを一新し、迅速な更新を行っている。 ・学校のポスターを作成し、市内各所に掲示していただいた。 ・「あおこうだより」を年間4回発行した。 ・PTA広報誌「灯台」を年間4回発行した。 ・「青谷町総合支所だより」に、隔月ペースで本校の記事が掲載された。	・ホームページの閲覧者数が増加している。 ・学校のポスターや「学校案内」「あおこうだより」「青谷町総合支所だより」等による情報発信を通じて、中学生や地域の方の本校への興味関心が高まっている。	・ホームページが閲覧者にとってより見やすく利用しやすいものになるように継続して取り組む。 ・ホームページを更新できる職員を更に増やす。 ・ホームページに地域向けのコンテンツを作り、地域の方に見ていただく。 ・学校のポスターを新しく作成し配布する。 ・「学校案内」「あおこうだより」を広く配布する。 ・「青谷町総合支所だより」で本校の魅力を積極的に地域に発信できるよう継続して情報提供を行う。	・ホームページが閲覧者がより見やすく利用しやすいものに改善した。 ・ホームページを更新できる職員が増え、滞ることなく最新のものを提供できている。 ・「あおこうだより」をホームページで閲覧できるようにした。 ・「青谷町総合支所だより」6月号、9月号、10月号への情報提供を行っている。 ・山陰観光連盟の依頼による関西地区主要駅、車両デジタルサイネー等に掲出する動画出演の協力、またFM鳥取に生出演し、学校のみならず地域の魅力を発信した。 ・中電エネルギーウィンドウギャラリーに、本校の特色ある取組の概要を展示した(9月末～11月末)。	B	・引き続き新しい取組等を地域に発信する。 ・10月30日に「課題探究」の「実践」活動として、「あおこうまるしえ」を道の駅西いなば気楽里で実施予定。 ・ホームページを更新できる職員の増加に継続して取り組む。 ・動画のアップができないか検討する。

令和2年度 自己評価表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>人づくり (キャリア教育の推進) — 自己肯定感を育み、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成 —</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>①学力の向上：学びへの意欲向上、基礎学力の充実 ②進路の実現：進路意識の向上、進路指導の充実 ③社会人基礎力の育成：生活習慣の確立、マナー・作法の向上、自己肯定感の育成 ④地域連携の推進：「青谷学」と「課題探究」の充実、地域の行事への参画・参加、保育園・小学校・中学校等との連携、広報活動の推進 ⑤業務改善の推進：時間外業務時間の縮減、学校行事等の見直し、部活動の計画的実施</p>
---------------------------	---	----------------------	--

評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（60%程度） D：まだ不十分（40%程度） E：目標・方策の見直し（30%以下）

年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
5. 業務改善の推進	(時間外業務時間の縮減) ・時間外業務時間縮減の推進	・時間外業務時間の全体平均は少ない。 ・昨年度の目標、前年度比10%減は未達成。 ・月45時間以上の延べ人数が増加。	・時間外業務時間縮減によって教職員が健康で、教育活動が充実している。 【指標⑳】 月80時間以上の者0人 【指標㉑】 教職員の年休取得が平均年15日	・管理職は勤務状況を把握し、日常的に声掛けを実施する。	・毎月開催している衛生委員会の結果を校内掲示板に掲載し、時間外業務の状況等について報告した。 ・給与・勤怠管理システムにより時間外業務の状況を把握し、日常的に声掛けを実施した。 ・4月～9月の時間外業務について、月80時間以上の者は0人で、月45時間以上の者も1人であった。 ・長期休業期間や定期考査期間等に年休取得を奨励した。	B	・継続して取り組む。
	(学校行事等の見直し) ・学校行事等の精選	・行事や講演等が多く行われ、生徒・教職員に負担感もある。	・行事の見直しが実施され、生徒・教職員の負担感が軽減されている。	・諸行事等の優先順位をつけたり、重複する内容の行事等を見直したりする。	・人権教育講演会は、情報モラル講演会も兼ねて計画した。	C	・継続して取り組む。
	(部活動の計画的実施) ・部活休養日の適正な実施 ・顧問間の部活業務分担	・多くの部が週一日休養日を設けている。 ・部顧問による部活業務の分担を推進しているが、まだ改善の余地がある。	・年間計画・月間計画に基づいて、適正に部活動の運営が行われている。	・管理職は各部の活動状況を把握し指導する。	・毎月、各部は活動計画及び実績報告を提出するとともに、「部活動に係る方針」の規定を順守しながら活動している。	B	・継続して取り組む。